

集合型TEKU-TEKU2023★日本の近現代建築家たち+東大本郷キャンパス（活動記録+評価結果）

企画■NAMA「日本の近現代建築家たち」特別展+東大本郷キャンパスの近現代建築群

日時■2023年12月2日（土）13時頃～17時頃（15時～集合型まち歩き）

コース■国立近現代建築資料館（NAMA特別展「日本の近現代建築家たち」第二部）+旧岩崎邸庭園～無縁坂～東京大学本郷キャンパスの近現代建築群（龍岡門・東京大学広報センター～医学部附属病院南研究棟～七徳堂～山上会館～御殿下記念館～三四郎池～法文1・2号館～安田講堂～工学部3号館～工学部新旧2号館～工学部1号館～総合図書館+法学部4号館+文学部3号館～福武ホール～コミュニケーションセンター<休憩>～ユビキタス学術研究館・春日門）

参加者■○井手幸人+大竹 亮+栗原 徹、伊藤圭子、重永真理子、庄山典子、二瓶正史、野中るみ子、原 久子、古里 実、村松紀明、山下浩一、横田宜明、脇野真澄、ほか1名（以上15名、○コーディネーター）

企画主旨■湯島にあるNAMA国立近現代建築資料館では、開設10周年記念アーカイブス特別展として「日本の近現代建築家たち」を開催中です。戦後日本の代表的建築家12名を採り上げ、貴重なコレクションを2部に分けて紹介しています。今回はその第2部「飛躍と挑戦」を訪問見学した後に、代表的建築家たちの作品が数多く存在する東京大学の本郷キャンパスを散策し、それらの作品群を見て回ります。日本の近現代建築家たちの足跡と偉業を図面等で改めて辿るとともに、代表的建築家たちの力作が現存・集積する本郷キャンパスを歩いてその迫力を実感し、近現代建築の価値について考えましょう。

1 ■国立近現代建築資料館+旧岩崎邸庭園について

評価:3.91 内訳:AAAAABBBBBB

評価A◆国立近現代建築資料館と旧岩崎邸は、企画展があるたびに訪れて、いつも深い学びがある場所である。

評価A◆近現代建築資料館なるものが国立の施設（2013年開館）として存在すること自体が、建築の文化的価値が相対的に低い日本においてはとても頼もしいことである。毎回の企画展は、鋭い視角と充実した内容で興味深く拝見している。歴史的建築の旧岩崎邸庭園と同じ敷地内にあるのも、相乗効果を呼んでいる。

評価A◆ジョサイア・コンドルの建物をゆっくり見学でき良かった。当時の日本の西欧式文化への羨望感とその価値観での高揚感がヒシヒシと伝わる空間だと思った。文明開化の空気を感じとれる貴重な建築だと思う。

評価A◆都心でこの空間、建物が維持・保存されているのは貴重。

評価A◆旧岩崎邸庭園ですが、20年近く前は一面芝生の庭園で、よちよち歩きを始めた娘を歩かせに連れて何度か訪れました。芝生に入れなくなってしまったことが残念でした。建物は手入れが行き届き、天井も高く、素晴らしかったです。

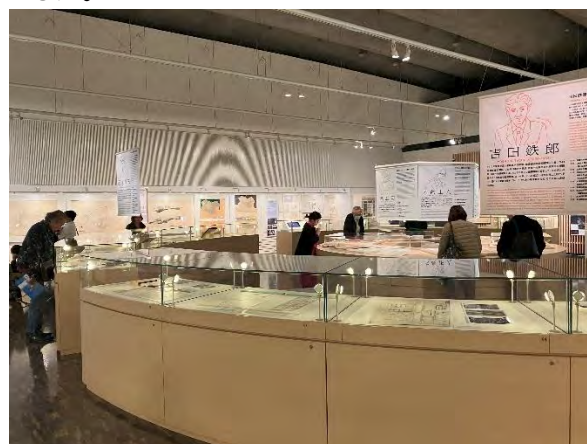
評価B◆旧岩崎邸庭園は建物も含めて見ごたえがある。国立近現代建築資料館はアクセスがわかりにくく、平日は無料なのに休日は有料になってしまうのが残念。

評価B◆岩崎邸については、直前にテレビ放映された番組で内外を観ていたので、現地見学はスキップしました。ジョサイア・コンドルの設計とはそれで知りました。幕末から明治に続く政商・豪商・三菱財閥の邸宅の雰囲気を残しています。空襲にも焼け残ったのですね。障害者手帳で入場料400円を節約しました。一方に莫大な富があるということは、他方には（私のように）まったく縁のない大衆がいるのだと信じています。国立近現代建築資料館は、アプローチからしても、使い道のない裏側の建物の一部分を転用したという雰囲気、訪問客が少ないのもむべなるかな、という印象でした。

評価B◆今回、国立近現代建築資料館の存在を初めて知りました。



旧岩崎邸庭園／J・コンドル設計の本館（1896年）



国立近現代建築資料館／10周年記念特別展

評価B◆近代建築家たちの図面や模型などリアルな資料が保存され公開されることは良いことと思う。さらに建築博物館としての常設と建築素人のもわかりやすくし、建築に興味を持ってもらう工夫も必要なのでは。旧岩崎庭園との連携ができていない、ただ隣にあるだけという感じ。岩崎邸の時代からの建築年表が常設されると岩崎邸との関連も出来る。

評価B◆庭園も資料館も静かで心地よいが、どちらも設置者（運営者）の熱い思い（来訪者へのメッセージ）がイマイチと思った。資料館の展示スペースも事務室も入口がわかりにくいのは何か隠れた意図があるのか。

評価B◆岩崎邸はそれなりにディテールが凝っていてよかった。暖炉がたくさん設置され、さぞかし冬は寒かったろうと思った。現代建築資料館は入口の場所が俄かにわからないなど、いかにもなつくりで、満足した。

2■NAMA特別展「日本の近現代建築家たち」について 評価:3.80 内訳:AAAABBBBBB-

評価A◆近現代建築家たちの手書きの図面やエスキース・スケッチを直に見られるのが良い。先人を身近に感じることができる。是非たくさんの若い学生たちに見て欲しい。図録も充実していて素晴らしい。

評価A◆展示内容に即したビデオは勉強になります。展示会ごとに作成される図録は素晴らしい。

評価A◆今まで毎回の企画展も充実していたが、その集大成ということで、迫力ある贅沢な展示だった。第一部では吉阪隆正のアトリエ・スケッチが衝撃的だったが、第二部ではインタビュー・ビデオが興味深い。

評価A◆文化庁主催のため、やっと現近代建築も文化として注目されることは喜ばしい。ヒアリング映像などもあり、建築家の人となりがわかったのも面白かった。今回、安藤忠雄以外は現代の建築家に取り上げられていなかったのはなぜ？

評価B◆日本を代表する建築家の作品をまとめて見られるのは良いが、展示そのものはわかりにくいので、もっと丁寧な説明が欲しい。

評価B◆入場料無料なんてすごい、でもそれでよいのだろうか、と思った。地味で特化した内容なのに結構人が入っていて、建築の好きな人って行動的だと感心した。私個人としては、知識が足りないので展示に対し理解の及ばないところがあり、個人を特集した機会に来るようにしようと思った。

評価B◆保管されている資料を淡々と示す、そこから何を感じ学ぶのかは来訪者に委ねられている、事前に学習が必要な内容。（建築を学び、建築に関係することを仕事にしている人たちが来るのだから当たり前かも。）映像をもっとじっくり見るべきだったと反省。

評価B◆パンフレットが無料で立派なのが驚き。雑誌・ネット等で美術展、イベントのチェックはまめにしているが、この企画は目につかなかった。もっと広報に力を入れて多くの人に見てほしい企画。

評価B◆全体に盛りだくさんすぎる内容で、消化不良気味でした。せっかくの機会なのですが、展示内容も細かい図面や文字で読み取りにくく、偉大な先賢たちの偉業を理解しきれませんでした。時間もちょっと足りなかったかな。家を出たのが遅すぎましたね。座って鑑賞できる席が少なく、高齢者には不親切な会場でした。階段の連続とともに。インタビュー・ビデオは面白かったですが。

評価B◆当時のスケッチや図面を見ることができたのは良かったです。

3■NAMA特別展において特に印象に残った建築家、展示物など

坂倉準三／新宿西口計画★坂倉準三が描いた図面を見ることができ、都市施設である西口駅前広場と駅ビルの計画に近代建築の巨匠がかかわっていた歴史を実感できた。

坂倉準三／新宿西口計画★若い頃、新宿西口は地上から見る風景と地下から見る地下街の一体的な景色との対応をととても興味深く見ていたので、その当時の図面が見られて面白かったです。

坂倉準三／神奈川県庁新庁舎★仕事柄、この建物を毎日のように見ているので、その維持管理と改修と今日がリアルに感じます。今でも新鮮な建築物です。

吉田鉄郎／東京中央郵便局★隈研吾が解説しているビデオを少し視聴できた。吉田鉄郎のモダニズム・デザインを評価するその内容が面白かった。

岸田日出刀／一連のゴルフ倶楽部ハウス★敗戦国からの脱却か、日本がゆとりや遊びに向かう様。

岸田日出刀／一連のゴルフ倶楽部ハウス★趣味人、フィクサーとしての建築家、岸田日出刀の後年の生き様。

大高正人／広島基町高層住宅★市民社会思想としての住宅と豊かさの可能性の追求。

大高正人／広島基町高層住宅とその計画★全体の平面計画図が強く印象に残りました。「くの字配置」そのものです。藤本昌也氏が関与していたと知りました。ぜひ見たいくなりました。内部と屋上は公開されていないようですが。近年の写真では、外壁が白く再塗装されて、明るい印象になっていました。

高橋誠一／大阪芸術大学総合計画案★第一工房・高橋誠一の都市的な空間構成センスが光る。

ポンピドーセンターのコンペ案★前川、大谷案知りませんでした。大谷案、いいですね。

京都国際会議場のコンペ案★様々な建築家の案を比較して見られたのは面白かった。

安藤忠雄／水の教会★図面からもその美しさが伝わってきました。

安藤忠雄の案内状★手書きの案内文が、人となり垣間見られて興味深かった。

西山卯三★展示の対象ではありませんでしたが、東の丹下、西の西山と例えられたように、多くの関東の建築家の、意識の対象として存在していたのではないのでしょうか。建築家としてよりも、都市計画学者、「食寝分離論」の住居論者としての存在が大きいですが、同潤会・営団・公団を通じての住宅建築家としての仕事を評価してほしかった。展示されていなかったことを告げたいと思います。

国立西洋美術館平面図と吉阪U研究室平面図（第一部から）★手書き図面の存在感とその表現力がすごい。

オールヒストリー★広島基町計画を語る藤本昌也、都市の建築を語る蓑原敬、両氏の存在感に圧倒された。

オールヒストリー／蓑原さんの語り★歯切れがよく、なるほどそうか、と思った。

オールヒストリー／藤本さんの語り★その節は大変世話になったと感謝の念に圧倒された。

4 ■ 東京大学本郷キャンパスの建築群について

評価: 4.64 内訳: AAAAAAAAAABB

評価A◆本郷キャンパス全体がヨーロッパの都市的なイメージ。内田祥三によるゴシック建築群がその骨格を形成しており、その後に建築・改修された建物も、既存建築物との調和を意識したものとなっている。

評価A◆キャンパス全体に各主要門からの軸線がしっかり通って、その両側とアイストップに壮麗なゴシック建築群が並んでいる。その後も既存建築の間にインフィルする形で増設されているので、全体として美しくもバロック的な空間構成が保たれて、理想的な（しかし権威主義的な）都市景観のようである。

評価A◆軸線を含め、過去の建築物への敬意を払いつつ、現代建築物も違和感なく存在している素晴らしい空間。

評価A◆こここそ近現代建築博物館です。もちろん東大系の設計者という制限がありますが、頑張って作った過去の建築物にレスペクトを持っていることを嬉しく確認しました。都市観光の対象になっていることもわかりました。ただ過密化が進んでいるのが残念です。一方、出身校の京大で、誇らしい建物は清風荘と吉田寮だ、と思うのは寂しいです。

評価A◆内田祥三ゴシックや岸田日出刀、丹下健三、前川國男、葦原義信、大谷幸夫、安藤忠雄、岸田省吾、内藤廣、隈研吾など巨匠たちが設計した建築がきちんと維持管理、保存、リノベーション、増築、新築などされ、使われているキャンパスの文化的豊かさに今更ながら感心し、羨ましくも思った。

評価A◆敷地が広いので、それぞれの建物が邪魔をすることなく建っていると思います。

評価A◆最近の建築よりも昔のゴシック様式のほうが「帝国大学」の威厳を感じられる。

評価A◆近代建築群が今も息づいている特別な街という感じがしました。

評価A◆近代建築史を学べる貴重な場所。

評価B◆東京大空襲と関東大震災をくぐり抜けてきた建物群ですね。古式ゆかしい建物群がベースですからしょうがないのですが、全体に「バリアフリーの視点が大きく欠けている」ことが残念です。階段が多く、手摺りも満足にありません。階段も急勾配で、日が傾いてからは、足元の照明も頼りない明かりでした。建物の表現としては、茶系統のスクラッチタイルの外壁と、八角形の塔をモチーフにしたデザインが共通の言語としてイメージに残りましたが、統一感には欠けます。帝国大学の総本山として、国家としての威信を表現したキャンパスですから、豊かな財源を投下して建設されてきたと、うらやましく思います。

評価B◆国家の威信をかけたキャンパス整備がよくわかった。



東大を象徴する安田講堂（1925年内田祥三・岸田日出刀）



多くの人々で賑わう本郷キャンパスの銀杏並木

5 ■東京大学キャンパス内の建築物等で特に印象に残ったもの

龍岡門／東京大学広報センター★歴史主義から離脱したデ・ステイルやドイツ表現主義の影響を感じるデザイン。

龍岡門／東京大学広報センター★ヨーロッパのレンガの素材を活かした表現と細部。

龍岡門★40年ほど前、叔母を東大病院で喪いました。そのとき、この門を通して故人を横浜の家に送ったことを深く記憶に刻んでいます。

医学部附属病院南研究棟★岸田日出刀のドイツ表現主義嗜好が表現された建物、素敵です。

医学部附属病院南研究棟★中庭のスケール感が良い。改修等の維持管理も上手にされている。

医学部附属病院南研究棟★リニューアルされてカフェなどもあり、中庭空間は非常に居心地よさそう。

医学部附属病院南研究棟★中庭との空間がとても良かったです。

医学部附属病院南研究棟★当時の雰囲気を残しつつ良い感じのリノベが行われている。中庭空間、窓のデザインが絶妙によい。

医学部附属病院南研究棟★レンガの色合いが美しいこの棟で囲われた中庭の空間は、コーヒーを飲みながらタイムトリップでも楽しめそうな心地良さを感じた。

医学部附属病院南研究棟の中庭★19世紀ヨーロッパの集合住宅の中庭を思わせる。落ち着くスケール感。

医学部1号館★圧倒的な迫力を感じました。

医学部2号館（本館）★横に長い壮麗なネオゴシック建築のファサードに、当時の最高権威の象徴を感じた。

山上会館（前川國男）★権威主義的な（国家威信的な）建築が多い中で、市民のためのこの建築にホッとした。

三四郎池★変わらずに在ってくれたことです。加賀百万石・前田藩の庭園の一郭なのでしょうね。

安田講堂から正門への並木通と建物群★内田ゴシックの中にアムステルダム派の影響を感じとれる素敵な景観。

安田講堂と銀杏並木★外国人観光客の記念撮影スポットになってる。脱力感いっぱい。まさしく観光名所ですね。

安田講堂★内田ゴシックに会えた。もっと尖ったデザインと思っていたが意外に装飾の少ない柔かなデザイン。

安田講堂★後ろに新しいビルがあるためか、思っていたより小さく感じた。

法文1号館★回廊が好きです。

連続アーチ★美しくかつ堅牢である。建築物でありながら土木構造物に近いことをいとわない力強さがある。

連続するアーチ、アーケード★眺めているだけで時を忘れるほど美しい。

連続する尖塔アーチ群★八角形の塔やスクラッチタイルとともに、一帯の建物のモチーフになっています。各建物で分断されがちなキャンパスに、通り道を作り出しています。

出入口通路ファサードの連続したアーチ★この幾何学模様には感性に訴えかける特別な美しさがあるように思う。

工学部2号館★歴史的建築物を保存しつつ、その上部に大胆な増築をしているのが面白い。

工学部2号館★力ずくでやればここまでできる、という潔い気構えに感服。

工学部3号館★工学的に面白い試み。

総合図書館とその前面の広場★総合図書館の印象的なファサードと噴水のある広場を囲む建築群がいい。

総合図書館★夕暮れに、明かりが漏れる開口部が輝いていて建物が美しくそびえていた。

総合図書館★機会があれば中に入りたい。

内田祥三先生の活力★すさまじいです。

情報学環・福武ホール★クラシックなキャンパス内にあって、現代建築が見事に新設・対置されている。

コミュニケーションセンター★ミュージアムショップ前の休憩テラスが心地よかった（疲れていたからか）。

観光地化・公園化★外国人観光客や散歩をする近所の人が非常に多かったのも、とても驚いた。



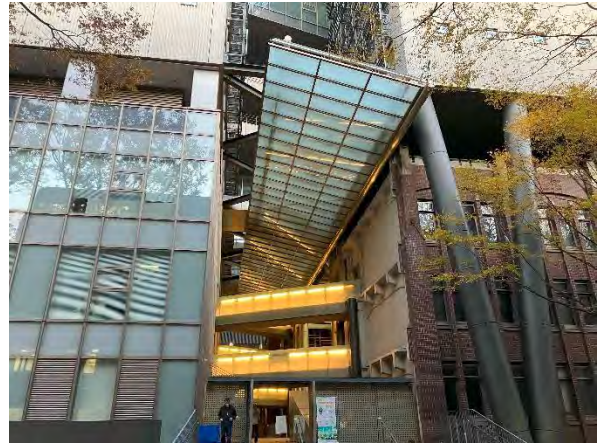
総合図書館（1928年内田祥三）と前庭広場



法文1号館・2号館と文学部3号館に続く連続アーチ



医学部附属病院南研究棟（1925年岸田日出刀）の中庭



工学部旧2号館(右下)と新2号館（2005年岸田省吾）

6 ■日本において優れた近代建築の価値を広め、社会的に評価されるようになるためには、どうしたらいいと思いますか？

- 裾野を広げて一般の人にも近代建築に触れる機会を増やす。近代とはそもそも市民社会を前提としているので。近代建築の理屈ではなく、その表現を感性として体感する機会を増やす。近代建築の良さを残しつつ、現代での機能面での不備などを補うリノベーションを行う。
- 多くの人に建物を知ってもらい利用してもらい愛着をもってもらうこと。建築雑誌だけでなく、一般雑誌やポスター、テレビ、CMで建物の広報に努める必要がある。
- 地域ごとに優れた近代建築を、見て歩く仕組みの普及。
- 誰もが、自由に見学をしたり建物の中に入れたりするようにすると、関心が高まると思います。
- 存在をPRし、より多くの人に知ってもらうこと、訪ねる機会を増やし、公開し、観てもらうことですね。体感してもらえることが関心の始まりだと思います。また、日常の通りすがりにある建物が歴史のある建物であることも、可能性があります。弥生門の守衛さんが「キャンパス案内」を配布してくれていたことが、そういったムーブメントの一端だと思います。TEKU-TEKUの活動も一役買っているのではないですか。
- 近代建築が「街の価値を高める」文化的資産であることをまず知ってもらうこと。「街の価値を高める」存在になるには、景観資源という観点だけでなく、きちんと維持管理され、活用されることが重要である。そのためには、リノベーション等による再生、活用を進めることが必要だと思う。
- 人間は常にどこかの空間に身を置いているのだから、その空間の水準が高いことは幸福につながるはずである。特に住宅、公共施設、都市環境は大切である。建築関係者は直感的センスで良さを理解するが、その価値が社会に定着するためには、論理的かつ普遍的に万人が理解できることが必要で、それが他の分野に比べて遅れている。歴史的建築はようやく理解されつつあるが、戦後近代建築はまだまだである。実際に空間体験をすることも効果的だが、それ以外の多くの人々に言葉でわかりやすく価値を伝えることが求められている。
- 建築関係者だけが良いと思っている建築が社会的に評価されていないとすれば、それは本当の意味で優れた建築とはいえないのだろう。それがなぜ社会的に評価されていないかを考えることこそが重要なのだと思う。
- 「建築を学んだ」「建築の仕事をしている」を抜きにして、市民目線で、心地よい空間、落ち着く空間、解放感のある空間を語る。その中に、近代建築もあるのではないかな。
- いま現在においても、その空間を多くの人々が一般的に利用できるという価値が加われば、もっと広く評価されるのではと思います。東大の本郷キャンパスのなかにカフェやレストランや遅くまで営業している学食がいろいろあるとは知りませんでした。しかも一般の人々も利用可能で、敷地の内外への出入りも自由だったとは、…。近代建築群の空間の中で当時の空気を感じながら食事をしたりお茶を楽しんだり、散歩したりすることは、日常生活の中での特別に快適な刺激の一つになるかと思います。現代の高齢化社会の中で、高齢者の自立支援（要介護への進行を防ぐ支援）で大切なこととして食事の管理と運動と脳への快適な刺激があると思います。広大な敷地と歴史的建造物が軒を連ねている文化的な環境でいろいろな生活設備が整っている国立大学のキャンパスこそが、もっと広く社会、特に高齢者に対してオープンで政策的に利用価値の高いものになれば、生涯自立を可能にする支援（要介護への進行を防ぐ支援）にも繋がっていくのではと思いました。
- 私のような凡人には、先取の気風を持つ建築について、100年くらい後にならないといいのか悪いのか理解できない。「良い」と言われる建築物については、とりあえず保存しておいて、ゆっくり評価できるような、寛容な時代になるといいと思う。

7 ■ 今回の企画全体に対する感想など

●本郷キャンパスについて、学生時代には当たり前前の大学キャンパスだと思っていたが、今回じっくりと見てみると、歴史的建造物群の宝庫であり、全体の空間構成もよく考えられていることがわかり、とても面白かった。(KT)

●近代建築とは何かということ、時代背景を含めて改めて考える機会をいただきました。東大の近代建築は西洋の潮流に遅れることなく、ほぼ同時代に、力と予算をかけて作った建築が多いのだと改めて感じました。そしてそれらをリスペクトし、現代の建築も建てられているのだと思いました。(HH)

●建築活動には、「誇り」をベースとした「意思」が大切だと感じました。今回も、企画及びご案内をありがとうございました。(IK)

●東大本郷キャンパスにこれほど、近現代建築の巨匠たちの作品があると知らなかった。国立近現代建築資料館の展示を見た上での見学は、学びの相乗効果抜群でした。企画ご案内いただいたKさん、Iさん、Oさん、ありがとうございました。(HM)

●東大本郷キャンパスは、広大な敷地に数多くの見ごたえのある建築があり、コロナが明けたことでまた開放されるようになったことは嬉しいことです。ありがとうございました。(WM)

●ジョサイア・コンドルの建築～東大キャンパスの建造物へと近代建築物の発展をたどりながら、現代に息づく空間と日本の西欧化建築物の漂う空気感を楽しむことができました。とても楽しい企画に参加させて頂き、ありがとうございました。(SN)

●銀杏のきれいな時期に本郷キャンパスを専門家の説明付きで見学できて感謝です。(NR)

●いちばん日の短い季節のまち歩きで、ちょっと忙しかったですね。懇親会会場の「加賀屋本店」は、外の風が寒かったですが、リーズナブルな価格で大満足でした。料理も美味しかったです。席が確保できただけでも感謝です。帰り道は二次会は失礼して、「都営大江戸線の本郷三丁目駅」から、副都心線との接続駅である「東新宿」に出て、渋谷経由の東横線で帰宅しました。東武・西武・メトロ副都心線の東急東横線への直通は、高齢者の行動範囲を拡げてくれています。南北線の「東大前駅」ととともに、本郷キャンパスへのアプローチのルートが新設され、変化してきていることを体感しました。23区内の地下鉄新設は「豊住線」を残して終了したようですが、(それにしても、そろそろ東京メトロと都交通局の統合は実現しないのですか？デメリットしか感じませんが)地下鉄網の整備により、バス利用による本郷への訪問は相対的に減っているのでしょうか？ 帰途、「大倉山駅」からの20分余の帰宅の徒歩に足元のおぼつかなさを意識するようになりました。いつまでTEKU-TEKUに参加できるかな？(MT)

●前回の目白・早稲田に続いて、大学のあり方が問われます。大学は今、学問・研究を続けるため、生き残りをかけて必死なのではと思います。まだ意見がまとまりません。(SM)

●大学の建築物を見て歩くシリーズができそうですね。面白かったです。(IY)

コーディネイターより ■今までも何回か訪問したNAMA国立近現代建築資料館で、今回は10周年記念特別展をやるのでぜひ行こう！というのがキッカケで企画しましたが、IY氏の提案で合わせて建築家たちの作品が多く存在する本郷キャンパスを歩こうとなり、さらにKT氏の案内で非常に充実した新旧建物群の見学ができました。両氏に深く感謝します(懇親会、二次会の場所選定も含めて)。というわけで、ほとんど何もしないコーディネイターでしたが、参加してくれた皆さん、ありがとうございました。(OR)

